

令和5年度

教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書

令和6年8月

吉備中央町教育委員会

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行いましたので、その結果を報告します。

II 点検及び評価の方法等

1 対 象

令和5年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

2 報 告

令和6年8月議会に提出

3 方 法

「施策」は、吉備中央町総合計画の重点施策に掲げている主な取組

「施策の内容」は、施策に係る具体的な取組内容や状況を記載

「成果と課題」は、実施した取組の成果と課題を記載

「評価」は、達成度についての内部評価を記載

A・・・十分な成果を得た

B・・・概ね成果を得た

C・・・成果もあったが、改善が必要

D・・・満足の得られる成果が見られず、事業の見直しが必要

E・・・事業の中止、廃止

4 公 表

町議会への報告

教育委員会事務局での閲覧

町役場の掲示場に掲示及び町ホームページでの公開

Ⅲ 教育委員会の組織及び活動

1 教育委員会の教育長及び教育委員

職 名	氏 名	性別	任 期
教 育 長	石井 孝典	男	R 3. 4. 1 ~ R 6. 3. 31
教育長職務代理者	前田 文男	男	R 4. 10. 30 ~ R 8. 10. 29
委 員	禰元 幸治	男	R 1. 10. 30 ~ R 5. 10. 29
委 員	佐藤 節子	女	R 2. 10. 30 ~ R 6. 10. 29
委 員	沼本 聖子	女	R 2. 10. 30 ~ R 6. 10. 29
委 員	平上 博	男	R 5. 10. 30 ~ R 9. 10. 29

2 審議案件

開催日	主な議決・報告等事項
4月20日	規則改正、育英資金の貸付の承認等
5月22日	学校等の状況、統合準備委員会各部会の報告等
6月22日	就学援助の認定、就学に関する許可等
7月26日	小学校教科用図書採択、育英資金の免除認定等
9月 1日	教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書等
9月21日	指定重要文化財の諮問等
11月29日	総合教育会議(学力向上と特色ある授業・特別活動、小学校・園の統合、アフタースクール等)
	教育支援委員会審議結果の承認、規則・要綱改正等
1月24日	就学援助の認定、就学に関する許可等
2月14日	育英資金の免除認定、就学に関する許可等
3月 6日	教育支援委員会審議結果の承認、小中学校人事、令和6年度予算等

3 研修会等

開催日	研修会等
11月24日	岡山県市町村教育委員会研修会(ZoomによるWeb会議)

4 学校訪問

6月 6日	吉備高原小学校、豊野小学校
6月14日	下竹荘小学校、加賀中学校
6月23日	円城小学校、御北小学校
6月30日	津賀小学校、上竹荘小学校
7月 5日	大和小学校、吉川小学校
9月15日	津賀小学校、上竹荘小学校
10月30日	円城小学校、御北小学校
11月 2日	加賀中学校、下竹荘小学校
11月 9日	吉備高原小学校、豊野小学校
11月16日	大和小学校、吉川小学校

5 会議の運営等

本町の教育委員会は、定例会を年10回、また、総合教育会議を1回開催しました。会議は、概ね全員の委員が出席し、毎回十分な時間を掛けて審議及び協議を実施しました。主な内容としては、教育行政の重点目標及び施策、人事、予算、就学、教育課程、学校の様子、学力状況等、多くの議題について検討され、慎重に審議しました。

教育委員は、県の研修会等に参加して識見の向上に努め、また、町内の小中学校を定期的に訪問、併せて卒業式、運動会等の各種学校行事にも参加しながら教育活動の現場を直接参観して現状を把握しており、これらを踏まえて、取り組みの成果や今後の課題を協議しています。

住民の意向や地域の実情に応じた教育施策となるよう、学校教育及び生涯学習の両面で今後一層工夫や改善に努めてまいります。

IV 教育委員会が管理執行する事務

1 基本的・総務的事務

町では、第2次吉備中央町総合計画基本構想・後期基本計画(令和3年度～令和7年度)を策定し、「22世紀の理想郷(ふるさと)吉備中央町」を将来像に掲げ、「子どもたちの笑い声があふれる懐かしく新しいふるさとの創造」の実現を目指し、町民と行政が知恵と力を出し合い、共に協力してまちづくりを進めています。その計画のなかで、教育委員会では、「教育環境の充実」を目標として取り組んでいます。

「町の将来を担う子どもを増やす」を重点プロジェクトに、①妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援、②教育環境の整備、③生涯学習の充実、④スポーツ・レクリエーション活動の充実、⑤青少年の健全育成、⑥地域文化の育成を目標に取り組んでいます。

現在、令和7年4月の小学校統合に向けて、令和4年から「町立小学校・園統合準備

委員会」の教育計画部会、施設整備計画部会、通学対策部会、校名・校章等検討部会、アフタースクール・放課後児童クラブ検討部会、園統合検討部会の各部会において協議されており、校名、制服の有無、スクールバスの運行ルート、教育目標、児童クラブの運営等の主な事項を決定し、令和6年度において、さらに具体的な協議を進めています。

2 人的管理に属する事務

本町の教育委員会は、本委員会事務局内の教育総務班、生涯学習班それぞれにより教育行政の基本方針や規則等の策定、制定、改正の原案を提案し、教育委員会において協議や審議をしながら具体的な教育施策を推進しています。

町立小・中学校教員の県費教職員の人事については、岡山教育事務所と連携を図りながら、複式学級における学び残しのない指導体制の充実や特別支援教育の推進、学力向上や生徒指導上の問題など、学校が抱える教育課題の解決のための加配要望を行い、課題解決に向けた教員配置に努めています。

また、個々の教職員の指導力向上を図るために、吉備中央町教育研修所の活動をはじめ、本町にある岡山県総合教育センターの講座や、校内外における研修等、多方面から研修しています。

学校運営に関しては、各校と町教育委員会が連携を図りながら、必要に応じて県教育委員会から支援をいただき、学校長に対して必要な連絡、指導及び助言を行っています。

また、GIGAスクール構想の推進を図るため、児童生徒に1人1台のタブレットを配布し、積極的な活用に努めるとともに、ルールづくりや教職員研修、環境整備等を進めることで、効果的な学習環境や、教職員の働き方改革にもつながっています。

特別支援教育については、教育支援委員会の判定状況から特別な支援を要する児童、生徒の増加が見込まれ、特別支援教育をより充実させるための体制づくりを図っています。さらに県費負担教員の配置基準による教職員だけの指導が困難な場合は、学校運営を円滑にするために町費による教育支援員の配置に努めています。

V 主要事業の報告

1 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1)子どもが安心・安全に過ごせる環境整備			
子どもの居場所づくり	○放課後の子どもたちの居場所として、小学校や地域住民と協働した「放課後子ども教室」で遊びや学び、体験活動、交流活動等を行うなど、子どもたちに安全・安心な居場所を提供します。	・大和放課後子ども教室(60名)、御北放課後子ども教室(17名)では、週2日、小学校等で開設され、多くの地区民の方に支えられながら子どもたちに安全、安心な居場所を提供しました。	B
(2)教育・保育の質の向上			
教諭の資質向上	○就学前教育アドバイザーの配置により、育てるべき力や保育のねらいなど就学前教育の共有を図り、小学校との連携、接続をスムーズに行います。	・小学校教職員が公開保育研修会へ参加し、就学前教育と義務教育との連携や円滑な接続について研修しました。	B
(3)支援が必要な子どもや保護者への対応			
障害児施策の充実	○家族や地域、関係機関との連携等により療育体制の整備に努めます。 また、乳幼児期から学齢期まで切れ目のない一貫した支援を行うため、共通支援シートを活用し、関係機関との情報連携を強化します。	・新入学児童の学習の様子や学校生活の様子を関係者が参観し、意見交換する機会を設け、園と学校の連携を強化しました。協議資料として、共通支援シートを有効活用し、支援体制を強化しました。	B
子どもの貧困対策	○子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るなど子どもの貧困対策を総合的に推進します。	・経済的理由によって就学が困難な児童、生徒で、町内に在籍する小学生、中学生を対象に、就学援助制度により学校用品購入費等の支給を76名に行いました。	B

2 教育環境の整備

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1)生きる力を育む教育環境の整備			
教育内容の充実	<p>○「知・徳・体」のバランスのとれた生きる力を育むために、町独自の学力調査を実施し、児童生徒の課題の把握に努めるとともに、支援員を配置し放課後学習サポートを推進します。</p> <p>○小規模化した小学校・園を適正に配置するために、学校等再編整備を進めて、魅力ある小学校・園の開校・開園を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町独自の学力調査を毎年3月に実施できている。また、支援員を希望する3小学校に対して、放課後をはじめ朝学習や休憩時間等における補充的な学習の充実が図れるよう個々の状況に応じた学習を支援しました。 ・令和7年度の開校に向けて、各校の校名・校章、制服の有無等を各種委員会で決定し、また学校と連携し、教育目標等も決め、予定通りに準備が進みました。 ・学校統合後において児童が学校生活を円滑に移行できるよう、統合する学校ごとに合同授業を複数回行うなどの工夫に努めました。 	A
教職員の資質向上	<p>○吉備中央町教育研修所の基本方針に基づいて、成果の上がった取組や事例の情報共有を図り、教師の教育技術の向上を推進します。</p> <p>○英語学習やプログラミング教育など専門性の高い教育の質の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吉備中央町教育研修所小中合同研究部会において、各校の学力向上に関する取組状況の確認と好事例の共有を行いました。研究指定校の加賀中学校において授業力向上に向けた研究を進め、授業公開を行いました。 ・各専門部会における公開授業・研究協議や、外部からの講師を招聘した研修会を実施し、教師の指導力向上に向けた研修を実施しました。ALT(外国語指導助手)3人体制で、1校当たり週2回勤務し、生きた英語による学びを深める機会を創出しました。ICT機器を活用しながら、小学校算数の正多角形の作図をする等、プログラミング教育を進めました。 	B

施策	施策の内容	成果と課題	評価
学校施設整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT 教育に対応するよう、各教室で使用できるタブレットを配置するなど、学習機器の充実を進め、学習しやすい環境整備を推進します。 ○令和7年4月に統合し、新たに開校する小学校の学習環境の整備を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での有効活用を向上させるために ICT 支援員と協力して、全教員を対象にオンラインにより年4回の ICT 研修を実施し、教員の指導力が向上しました。 ・円城小、豊野小について、照明のLED化、普通教室、特別教室の全てに冷暖房設備の設置、トイレの洋式化等の改修を完了でき、また、次年度の吉備高原小の改修に取り掛かれるよう設計書を作成しました。 	A
国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○英語教育の充実に向けた環境整備や教職員への研修の実施を図り、「見る」「聞く」「書く」「話す」等の技能の向上を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語学指導等を行う外国青年招致事業「JET プログラム」で普段聞く機会の少ないネイティブの英会話を通して、英語を聞いたり話したりする力が身につきました。 	B
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールソーシャルワーカーを全小中学校に配置し、児童生徒への支援を進めるとともに、教職員の指導への助言も行います。 ○いじめ問題の実態について関係者での情報共有を図るとともに、教育相談やアンケートの実施によるいじめ問題の未然防止に取り組みます。 ○スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、子どもの相談に対するカウンセリング機能の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)を全校に配置し、長期欠席や不登校等の特別に支援を要する児童、生徒への対応や家庭支援を行いました。 ・児童生徒へのカウンセリングや教職員への助言を行い、学校の教育相談体制の強化を行いました。また、各校で教育相談やアンケートを実施し、いじめ問題の未然防止、早期対応に取り組みました。 ・SC、SSW の各校への配置時間を増加させるとともに、定期的に町教委・関係機関との連絡会を設け情報共有を行いました。中学校への自立応援室の設置や、オンライン相談室の活用推進により、児童生徒への相談体制の強化を図りました。 	B

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(2) 家庭や地域の教育力の向上			
家庭における教育力の向上	○家庭学習強化週間を重点に、子どもたちの生活習慣と学習習慣の定着を促すとともに、親育ち応援プログラムの実施促進を図り、家庭の教育力の向上を図ります。	・中学校の試験週間に合わせて、家庭学習強化週間を行いました。宿題の出し方等を工夫した取り組みを各校で進め、好事例の共有を行いました。また、小学校新1年生の保護者や保育園の保護者を対象に、町内のファシリテーターが親育ち応援学習プログラムを実施し、子育てに関する悩みや不安感を持つ親や家族の解消に取り組みました。	B
地域における教育力の向上	○地域の豊かな自然や伝統文化を学ぶ機会を通して、地域住民による学習支援や体験活動の指導の促進を図ります。 ○学校評議員による教育内容の改善に向けた意見交換や地域学校協働活動を展開し、学校・家庭教育支援の取組を推進します。	・社会科や総合的な学習において、地域の方から学ぶ活動を実施し、町内の文化や伝統に触れる学習を行いました。 3・4年生社会科副読本「岡山県のまん中吉備中央町」による郷土学習を進め、地域見学等も積極的に行いました。 ・学校評議員会に代わって、地域とのつながりをさらに深めるために、学校運営協議会を各校で開催し、学校が抱える課題や取組方針等について協議するとともに、地域住民の協力を得て、学校と地域の協働による登下校の見守り、本の読み聞かせ、野菜の栽培体験等の活動を行いました。 令和7年度の小学校再編に向け、地域住民が主体となった閉校記念行事の検討をしました。	A
(3) 子どもの安心・安全の確保に向けた環境づくり			
通学路等の危険箇所の解消	○地域や保護者と協力して、通学路等の危険箇所の確認や解消に取り組めます。	・PTAからの要望を受け、危険箇所を県、警察署、町建設課等と情報共有し、綿密に連携と取りながら、多くの危険箇所の改善につながり、また早期解決に向けた準備をすることができました。	B

3 生涯学習の充実

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1)生涯学習と地域コミュニティの形成			
<p>学習機会を通じた地域の絆の再構築の推進と地域課題の解決に向けた取組</p>	<p>○ライフステージに応じたスマホ講座等、多様な学習機会の充実を図るとともに、学習機会を通じて、地域のリーダーとなる人材の育成も促進します。</p> <p>○人口減少、少子高齢化社会の進行に対応できるよう公民館の在り方や団体・クラブ活動のネットワーク化を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館でスマホ教室、時代の流れに沿った各種講座を行い、学習環境を充実させました。 ・人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響で、公民館での行事への参加者が減ってしまったが、変化したニーズにも対応・工夫して行事を行いました。 	B
(2)学習環境の充実			
<p>ライフステージ等に応じた学習環境の整備</p>	<p>○ICT を活用した児童生徒の家庭学習の充実を図ります</p> <p>○図書館の蔵書の充実と知的好奇心を満たすための講座開催や、新たな本との出会いにつながる場所づくりを図ります。</p> <p>○公営塾で放課後の学習時間を確保することにより、学力の底上げを図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを家庭に持ち帰るよう、ICT を用いた課題、予習等を出すよう学校に指示し、徐々にではあるが、タブレットの持ち帰りを推進できました。 ・蔵書数は6万冊を超えており、他市町との連携もあって、貸借がより充実しました。講座は全て開催することができました(表1参照)。また、より多くの方が図書館の本を利用することができるよう移動図書館車を導入し、運行しました。 ・下竹荘公民館で、地域おこし協力隊員が月曜日から金曜日の放課後、英語と数学を教えており、1年生が14名、2年生が7名、3年生が15名の生徒が塾に通いました。学力向上に加え、妙本寺での特別授業等地域の特色を生かした学習支援に取り組みました。 	B

表1(図書館の状況)

日時	イベント名	内 容
6月～	移動図書館車「こっぷり号」Aコース	吉備高原・吉川・大和方面へ月に2回出前図書(移動図書館)
6月～	移動図書館車「こっぷり号」Bコース	下竹荘・御北方面へ月に2回出前図書(移動図書館)
6月～	移動図書館車「こっぷり号」Cコース	円城・納地・上竹荘方面へ月に2回出前図書(移動図書館)
6月17日	体験ブッククラブ①	竹とんぼづくり
6月24日	土曜シネマ「コーラス」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
6月28日	相続の話	法務局の方を講師に相続の話
7月29日	土曜シネマ「ごんぎつね・海のいきもの」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
8月木曜日	立石先生の語りの学校	語り手養成講座(全5回開催)
8月5日	図書館フェスティバル	おとぎと魔法の劇
夏休み	図書館お仕事体験(計4回)	小学生対象の図書館司書体験
9月27日	講座「きのこのはなし」	きのこについての座学とフィールドワーク
10月～12月	教養講座「紫式部」	紫式部のことを学びながら音読(全3回開催)
10月21日	体験ブッククラブ②	ハロウィン
11月25日	土曜シネマ「海の上のピアニスト」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
12月16日	体験ブッククラブ③	図書館クリスマス
1月28日	福福来来	どんぶらこの語り
2月4日	山城講座	山城についての講座
2月24日	土曜シネマ「ハチとパルマの物語」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
3月16日	体験ブッククラブ④	えいごであそぼ

4 スポーツ・レクリエーション活動の充実

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1)生涯スポーツの振興			
ニュースポーツの普及	○ニュースポーツの普及を図り、生涯スポーツを定着させるため、人材の発掘・育成に努めます。	・ニュースポーツの備品を定期的に小学校、イベントなどに貸し出し、体験を通して、普及、定着に取り組みました。また、スポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツの指導を行いました。	B
団体・組織の育成	○事務手続きなど利用団体の負担の軽減を進めるとともに、人口減少に対応した団体・組織の運営を検討します。	・スポーツ教室等、競技人口を増やす機会を創出しましたが、地域と連携した組織力向上を図ることが今後の課題となっています。	C
大会等への参加者数の増加	○新たな参加者を得るため大会の規模・日程等の開催内容を検討するとともに、多くの町民が参加できるよう広報に努めます。	・イベントの見直しを行い、来年度に向けての計画を立てました。広報だけでは集客が厳しいため、前年度の参加者を中心に声かけ等を行い周知に努めました(表2参照)。	B
(2)スポーツ施設の充実			
計画的な修繕	○計画的な修繕等を行い安全で快適なスポーツの場の提供を図ります。	・かもがわ総合スポーツ公園野球場のベンチ床を修繕し、スコアボードを新調しました。また、R4年度の子ども議会を受けて整備した3on3バスケットコートカラー舗装しました。また、体育館内にはウォーターサーバーを設置、かよう総合スポーツ公園体育館のバスケットゴールの修繕、吉備高原グラウンドゴルフ場のベンチを新調、増設しました。	B

表2(開催状況)

日付	行事
4月15日～16日	吉備中央町バレーボール教室
6月11日	【中止】第17回吉備中央町ソフトボール及びバレーボール大会
7月9日	吉備中央町スポーツフェスティバル
10月8日	第35回吉備高原車いすふれあいロードレース
1月28日	第13回「晴れの国岡山」駅伝競走大会
2月11日	第14回吉備中央町早春マラソン大会

5 青少年の健全育成

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 青少年の健全育成活動の促進			
青少年健全育成活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○各種のスポーツ少年団活動や文化活動、ボランティア活動、ちびっ子チャレンジ教室等の体験活動を充実させ、青少年がさまざまな活動ができるよう計画的に推進します。 ○中学生のヤングボランティアの力が十分発揮できる場を提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吉備中央町小学6年生みんなの絆づくり事業を牛窓研修センター・カリヨンハウス(瀬戸内市)で59名の参加により1泊2日で行いました。 ・ちびっ子チャレンジ教室を年6回開催し、多数の小学生が参加しました(表3参照)。中学生もヤングボランティアとして参加し、46名が運営をサポートしました。 	B
青少年相談員連絡会の充実	○青少年の健全育成を推進するため、青少年相談員連絡協議会等の組織の活性化を図るとともに、相談員の質の向上を図ります。	・協議会(オンライン等)を開催し、講演の視聴、相談員の活動について意見交換を行い、見聞を深めました。	B
(2) 各種機関との連携の充実			
家庭・地域・学校との連携	○地域ぐるみで子どもを育てよう地域学校協働本部を中心とした家庭・地域・学校の連携を継続するとともに、多様な関係者(保護者、教職員、地域住民等)が集まり、課題解決を目指す「熟議」によって、より連携を深めます。	・学校運営協議会の設置を令和4年度から随時行い、令和5年度すべての小学校に設置しました。中学校においても令和6年度に設置されます。令和7年度の小学校再編に向け目標を共有するために、令和6年度「熟議」の場を設ける予定です。	B
相談体制の充実	○青少年相談員制度の周知を図り、保護者や子どもたちが悩みなどを相談できる体制を整備します。	・「広報きびちゅうおう」への掲載や、各学校でチラシを配布し、制度の周知を行いました。	B

表3(ちびっ子チャレンジ教室)

日付	内容
7月1日	「星座観察」をしよう！〈親子で参加しよう〉
9月9日	「逃走中」に楽しく元気に挑戦しよう！
10月1日	ニュースポーツに挑戦！
11月18日	ジャンボかるたとり大会に参加しよう！
12月16日	パンケーキ作りに挑戦しよう！
1月20日	わくわくクッキングにチャレンジ！

6 地域文化の育成

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1)文化財などの保存・継承			
文化財の保存・活用の仕組みづくり	○町「文化財保存地域活用計画」を策定し、町全体で文化財の保存・活用する仕組みづくりを行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、町内の文化財の現況を確認し、策定に向けて情報を収集しました。 ・計画策定は他の市町の事例をもとに、今後慎重に研究していくことが課題となっています。 	C
町文化財の把握促進	○地域の指定・未指定の文化財の把握に努め、資料のデジタル化を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の現状把握に伴い、解除が望ましい文化財を中心に整理を進めました。また、引き続き、文化財リストのデジタル化公開について検討が必要です。 	C
町文化財資料の活用	○学校や公民館等での学習機会を増やし、それら学習機会への積極的な資料提供により、授業・体験に活用していただきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習としてお祭り会館、加茂川歴史民俗資料館の見学など、直接目で見て体験できる授業を積極的に行いました。 	B
無形民俗文化財の保存・継承	<ul style="list-style-type: none"> ○無形民俗文化財の周知や担い手の育成など、伝承活動に取り組んでいる団体へ引き続き支援を行い、地域に伝わる伝統芸能の保存に努めます。 ○伝承活動している団体にご協力いただき、次の世代を担う子どもたちに学校や公民館の学習の場で地域の文化を継承します。なお、その活動を通して子どもたちの郷土愛だけでなく、地域の大人たちとの関わりの中で社会性や自主性を育むことが期待されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで規模縮小して開催された県指定無形民俗文化財の備前加茂大祭、吉川八幡宮当番祭、川合神社だし献燈祭は、コロナ禍以前の規模に概ね戻して実施されました。地域の文化を伝承支援していけるよう、必要な支援を行いました。 	B

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(2) 地域文化の育成			
各種団体への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○町文化協会や公民館等の文化芸術活動を、広く町民に周知します。 ○各種団体の発表の場を提供し、活動の機会を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合文化祭を開催し、地域の文化芸術の伝承支援をしていけるよう必要な支援を引き続き行いました。 各公民館の文化祭は、展示物を中心に実施しました。 また、各種サークル活動への支援も継続して行いました。 	C
学校での文化芸術鑑賞の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校に国や県の事業情報を提供するとともに、周知の方法を工夫することで、児童生徒の鑑賞の機会を確保します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人日本芸術文化振興会の舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)や岡山県の岡山フィルハーモニック管弦楽団メンバーによるスクールコンサート、文化人材バンク学校出前講座を活用し、講師を招いて音楽や演劇を公演しました。 	B

VI 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に基づき、学校法人順正学園吉備国際大学教授 前嶋英輝 氏、元町立小学校教頭 石井啓子 氏 に点検及び評価に関しての助言及び意見をいただきました。

○学校法人順正学園吉備国際大学 教授 前嶋英輝 氏

吉備中央町教育委員会におかれましては、健全で配慮の行き届いた活動と事務が執り行われていると理解できました。令和7年4月の「町立小学校・園統合」に向けての最終的な作業を行いながら、例年の事業計画を確実に実行できていることは素晴らしい成果として評価できます。

第2次吉備中央町総合計画基本構想の「子どもたちの笑い声があふれる懐かしく新しいふるさとの創造」に対して「教育環境の充実」を目標として取り組んでおられますが、この教育環境は「もの」「こと」「ひと」の環境であることは執行された内容から明らかでありその充実度が客観的に理解できます。以下に項目別にコメントさせていただきます。

① 「妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」については、子育て推進課と情報交換を行いながら就学前教育と義務教育の連携や円滑な接続に配慮が見られる。現在は、令和4年に成立した「こども基本法」や子ども家庭庁「こどもまんなか社会」、認定こども園への移行期であり、「居場所」が重視されている。このような時期にこそ教育委員会が就学前教育を重視し、現場の自由を尊重しながら教育センターとしての機能を保持することは極めて重要である。障害児施策や子どもの貧困対策においても確実な事務が執り行われている。

全て評価をBとしているが、これらの支援は行政としても最重要課題の一つであることは言うまでもないため、A評価にするために必要なことを思い切って行うためのアイデアを集めて挑戦していきたい。

② 「教育環境の整備」では、「生きる力」の育成が「主体的・対話的・深い学び」を実現するための「学びに向かう力、人間性等」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の三つの柱を基本として調査や支援が実行できている。またそのための人的環境づくりとして、教職員の資質向上の一環として授業力向上に向けた研究が進められていることやALTの充実が評価できる。GIGAスクール構想に関する施設整備の推進はA評価となっており、望ましい環境がいち早く完成しているといえよう。

「家庭や地域の教育力の向上」においても、親子ともに支援できるプログラムを実施しており、各校での学校運営協議会の開催により具体的で実際に必要な活動が実現

できている。「地域における教育力の向上」が A 評価であることは重要で教育委員会の中核をなす要点であり、生涯学習との関係からも家庭・学校・公民館や図書館との連携を点から線、そして面へと繋いでいる。また安全管理についても関係機関と情報共有することは地道な作業として確実に継続できている。

- ③ 「生涯学習の充実」においては、ICT と紙媒体の情報をどちらも良いところを引き出しながら活用できている。図書館のイベントは特筆すべき充実した活動となっており、スマホやタブレットでの検索とは別の出会いを創出できている。今後、AI が教育を取り巻く生活全体で影響を拡大していくことは必至であるが、それを良い形で道具として利用できるようにすることは、図書館などが良い学びの例として提示できる。生成 AI と人間の「創造」の意味と価値の違いを考察し意見交換を継続できる場を提供することが重要である。

公営塾の取り組みは意義があるものとなっており、今後中学校の部活動への対策なども急務であるため、教育委員会の総合的で積極的な「指導者」支援計画が必要である。

- ④ 「スポーツ・レクリエーション活動の充実」では、対象団体の種類や目的が多岐にわたることは避けられない。団体・組織の育成に関しては C 評価となっている点については、やはり中学校の部活動問題と無関係ではない。小中学校の児童生徒のニーズや現状を把握することを継続しながら、統合後の具体策を検討したい。

- ⑤ 「青少年の健全育成」でも各団体を繋ぐ活動ができたのは大きな成果といえる。日常生活の中や身近な学校施設の利用であっても教育委員会の集めるアイデアが反映されることで新規の活動が創出できる可能性が示されている。その意味でも単年度にこだわらない議論を主導し、「熟議」「青少年相談員制度」を支援しつつ意見収集を充実させたい。

- ⑥ 「地域文化の育成」では、B、C 評価となっているものが多い。この分野は「ひと」環境が重要な要素となるため、地域の人材活用の方法を検討し「見える化」した人材リストを常に更新しながらシステムを構築できると良い。特別な知識技能を持つ移住者も増える可能性があり、具体的な環境設定と支援体制を構築して、学校教育、生涯学習、地域文化の育成が相乗効果を上げていくことを期待する。例えば旧竹荘中学校舎などへの芸術家招致なども可能性として考えられる。

令和5年度は、統合最終段階であったことをはじめ多くの課題の転換点であり関係者のご尽力には深く感謝いたします。今回の内部評価は、謙虚に採点された部分も多い

かと存じますが、例年地道に行うべき活動内容が達成できた場合はA評価であると思います。また、積極的に挑戦した活動は成果を評価せざるを得ないとはいえその新規性自体が評価できると考えられます。現在もまだまだコロナウイルス感染症の罹患率は低くはない状態が続いており、温暖化の影響など行事の運営に最大限の注意が必要であることを鑑みても教育環境への支援はある意味勇気の必要なことです。それでもリーダーとそれを支える存在なくしては町民の幸福は担保できません。「環境による教育」を共有しながら今後ともよろしくご指導ください。

○元町立小学校教頭 石井啓子 氏

1 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援について

(1) 子どもが安心・安全に過ごせる環境整備

放課後子ども教室は、子ども達の居場所としてはもちろん、子どもの居る家庭にとっても大変ありがたい取組みです。夕方の忙しい時間にもかかわらず、指導員として子ども達を支えてくださっている地域の方々やその家族にも感謝したいです。

令和7年度の小学校統合後も円滑に運営できるよう設備・人員ともに、細やかな対応を進めてもらいたいと思います。

(2) 教育・保育の質の向上

公開保育研修や公開授業は、教諭の資質向上の面で有効だと考えます。幼・保・こども園から小学校への接続では、就学前教育アドバイザーの配置があるということで、更なる連携を期待しています。令和5年度までは、各幼・保・こども園と小学校の合同運動会や交流活動があったかと思いますが、令和6年度にこども園として統合されたので、形態が変化すると思います。今後も接続・連携のための研修を継続してください。

(3) 支援が必要な子どもや保護者への対応

共通支援シートは、担任だけでなく、チーム体制で支援できるので、続けて有効活用できればと思います。また、貧困問題やヤングケアラーの問題など、見落としがなないように、学校と行政、関係機関が情報連携・共有して、子ども達が等しく教育を受けられるよう引き続き支援して行ってください。

2 教育環境の整備について

(1) 生きる力を育む教育環境の整備

教諭の研修、ALTによる外国語指導、ICT教育の推進及びSC・SSWの配置など、優れた取組みが定着しつつあると思います。令和7年度の小学校開校に向けて準備が予定どおり進んでいることは、心強いです。

(2) 家庭や地域の教育力の向上

ふるさとを愛してもらうためには、まず地域を知ることが重要ですので、地域学習やそのための副読本づくりなどの実施は、素晴らしいものだと考えます。学校と地域の相互理解を深めるために、作成した副読本などを公民館に設置すると、取組みがより一層推進されると思います。

3 生涯学習の充実について

(1) 生涯学習と地域コミュニティの形成

公民館は、住民にとって近くにある学習の場であり、交流の場でもあります。スマホ教室など新しい講座を提供してくれ、やりたいことを支援してもらっているのが、地域にとってありがたい存在となっています。

地域や公民館でクラブ活動を行っている団体のネットワーク化の取組については、他の地域の活動を見たり、他団体と活動を共に実施しているという事例を見聞きしています。人口減少に対応した優れた取組みだと思えます。

(2) 学習環境の充実

移動図書館こっぷり号も地域のニーズに応じた効果的な取組みだと考えます。職員が図書に関する希望や情報提供を行ってくれるので、本との出会いだけではない楽しみが創出されています。

町営塾については、学力向上の取組だけでなく、受験の相談にも乗ってくれているので、通塾者の満足度が高いと聞いています。

4 スポーツ・レクリエーション活動の充実

高齢化や人口減少に伴い活動人口を増やすことは、簡単なことではありませんが、施設管理や大会等のイベント開催など努力していると思います。私自身が公民館のスポーツ行事(ボッチャ、フリスビー、ストラックアウト等)を体験した際、参加者が楽しみながらニュースポーツを体験していたので、普及活動の成果が表れていました。

5 青少年の健全育成

学校の枠を超えた活動には、大変力を要しますが、成果を出していて、それが毎年継続していることが優れていると思います。

地域ぐるみで子どもを育てようという思いは、様々な取組や日常の様子から感じ取ることができます。

6 地域文化の育成

町内に住んでいても近くを知らないことがたくさん存在します。数年前「吉備中央町のむかし話」を拝読し、地域文化保存の重要性を認識しました。広報誌でも文化財

の紹介がされていますが、デジタル化ができれば更に良いと思います。

子ども達が優れた文化芸術に触れることは、とても重要なことです。学校には、手続きが煩雑でないものを紹介することで、文化芸術に触れる機会を増やしてもらいたいです。

VII 終わりに

令和5年度の本町教育委員会事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を実施し学識経験者の助言などを報告いたしました。

令和7年4月の小学校統合に向けて、町立小学校・園統合準備委員会等で検討が進められ、ハード面、ソフト面ともに着々とより良い教育環境となるよう準備が行われています。

町の総合計画の「22世紀の理想郷(ふるさと)吉備中央町」の実現に向けて、今後も教育委員、事務局職員自らが点検及び評価をし、学識経験者の方からいただいた御意見を取り入れ、さらに教育委員会活動を充実させ、学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいた具体の事務を滞りなく執行できるよう、引き続き努力していきたいと考えております。